

報告事項 1

第1回徳島県教育振興審議会について

教育創生課

第1回徳島県教育振興審議会 会議概要

1 日 時 平成29年1月26日（木） 午後3時から午後5時まで

2 場 所 徳島県庁 10階 大会議室

3 出席者

(1) 委員 23名中 21名出席

(2) 県 教育長及び教育振興計画策定検討会議会員の29名出席(含 代理出席4名)

4 会議次第

(1) 開会

(2) 教育長あいさつ

(3) 審議会委員及び事務局職員紹介

(4) 会長・副会長の選出

会長 山下 一夫 鳴門教育大学 学長

副会長 辻 明彦 徳島大學生物資源産業学部 学部長

副会長 近森由記子 徳島県青年国際交流機構 会長

(5) 会長あいさつ

(6) 徳島県教育振興計画の策定について諮問

(7) 徳島県教育振興計画策定方針等について説明

(8) 徳島県教育委員会の取組について説明

(9) 審議会委員による意見交換

(10) 閉会

5 審議会委員から出された主な意見(「徳島教育大綱」の3つの重点項目別に整理)

(1) 重点項目Ⅰ 地方創生から日本創成へ！「徳島ならでは」の教育の推進

・児童生徒の個性を重んじる教育が最も大事である。最近、画一的な目標を掲げるあまり、数値に表れる成果を求めすぎているのではないか。そのため、子どもに対し、教育に関する過度なストレスがかかっているように思う。

・「発達障がい教育のトップランナー」としての県教委の取組は、小学校・中学校、及び特別支援学校における取組であり、高等学校での取組が欠けている。既存の施策の充実に加えて、高等学校においても、発達障がいの生徒に対する何らかの新しい施策が必要である。

・高校教育の場が減少し、それが理由で地元を離れなければならないという状況がある。教育が地方創生の制約となるのではなく、ＩＣＴの活用やデュアルスクールに見られるように、教育が地方創生を牽引しなければならない。

- ・近い将来、日本の労働人口の半分程度が就いている職業が、人工知能やロボット等にとって代わられる可能性があると言われている。将来、必要とされるような人材を育てるキャリア教育が重要である。
- ・神山町にはサテライトオフィスがたくさん立地している。幅広い職業を見たことがない小学生にとって、サテライトオフィスに勤務する方との交流は意識の変化につながる。キャリア教育では、地域との連携・協働を進めていく必要がある。
- ・高校生防災士の育成については、今現在、学校の中で避難所を運営するとしたならば、具体的にどう動くのか、何ができるのか、という視点が必要である。

(2) 重点項目Ⅱ 一人ひとりが輝く！徳島の未来を育む教育の推進

- ・学校教育の目標は、知・徳・体の調和のとれた人間を育てることだと思っている。学校現場で知・徳・体の育成に向けて、時間をかけて丁寧に取り組むことができれば、子どもが直面する多くの課題は解決できると思う。
- ・現状でもすばらしい取組はたくさんあるが、この取組を実りあるものにするためには、幼児教育の充実が肝要である。幼児期からの教育が積み重なって、成果につながるのだと思う。
- ・新たな社会問題というのは、人権に関わる問題が多いように思われる。福島県の原発事故に関するいじめや、ネット社会の問題がその例であり、今後も増加するであろう。次期振興計画においても人権教育の位置付けを考えるべきである。
- ・現状でも教員は忙殺されている。次期学習指導要領で導入されるアクティブラーニング等により、さらに拍車がかかるのではないか。余裕ある教員の仕事ぶりの中から、子どもを教える、子どもの命を守るという行為が可能になるのだと思う。
- ・子どもたちの未来を考えた取組であっても、そうした学校での活動に興味・関心を示さない保護者が増えているように思う。
- ・高齢化社会は避けては通れない。徳島教育大綱には、高齢者との関わり、ふれあい等の視点が欠けている。
- ・学ぶことは楽しいこと、これが前提ではないかと思う。その上で、様々な取組も成立するのではないか。学ぶ子ども、教える教師、そして保護者、地域住民が、その点をもう一度、再認識する必要がある。
- ・自ら社会と関わり、つながり、参加したいと思えるような主権者教育をするべきである。模擬投票をして終わりといった主権者教育ではいけない。
- ・幅広い科目や取組(例 数学、英語、国際理解、キャリア教育)からアプローチする徳島スタイルの消費者教育を打ち出す必要がある。方策としては、地域と連携する効果的で、ライフステージに応じた体系的な教育の推進が重要となる。

(3) 重点項目Ⅲ グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進

- ・小学校に英語教育が導入され、国語の授業時間数が減少していくことに疑問を感じていたが、子どもたちが英語を受け入れている様子を見ると、まず話してみるという機会が多く保障されることは、非常に重要なだと感じるようになった。
- ・小学校で英語が教科化される。「聞くこと」「話すこと」の活動に加え、「読むこと」「書くこと」を加えた領域を扱うことで、小学校段階で英語嫌いになるのではないかと危惧している。そうならないために、「徳島ならでは」の英語教育の体系を構築する必要がある。
- ・グローバル社会を見据えた時、日本人には語学の壁がある。それを克服するためには、クラスの一部の児童生徒だけではなく、全体の語学力を底上げする必要がある。
- ・機器等も含めた教育環境の整備について、もっと全体を底上げできるようなお金の使い道を考える必要がある。
- ・全国体力・運動能力調査で、徳島県が10年ほど前に最下位であったことを考えると、平成28年度は夢のような結果である。県教委が、リーダーシップを発揮することによって結果はついてくる。次期振興計画の中でも、様々な分野で施策の方向性を明示することにより成果が期待できると思う。
- ・英語村やトップアスリートに関わる事業に参加する子どもの多くは、将来的に県外へ進学・就職する可能性が高いように思われる。徳島で教育を受けた子どもたちが、将来、徳島に関わってくれるような仕組みづくりを考える必要がある。

(4) その他

- ・既存の施策について、事業結果が出ているものもあると思う。成果をあげた事業については他の学校への普及に努め、芳しくない結果の事業については、原因を究明し、より効果的な施策の立案に努めなければならない。
- ・県教委の取組状況は非常に進んでおり、毎年、進化している。ただし、新しい取組ばかりに捕らわれると、既存の施策が形骸化していく恐れがある。あらゆる事業を毎年改訂しようとするのは、ナンセンスである。

徳島県教育振興審議会資料

第1回徳島県教育振興審議会

徳島県教育振興計画

徳島教育大綱

徳島県教育振興計画 第2回

徳島県教育委員会の取組

1 「徳島教育大綱」とは？

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」
の改正に伴う教育委員会制度の改革
(H27.4月1日施行)

総合教育会議

- すべての地方公共団体に設置
- 首長と教育委員会で構成
- 地域の実情に応じた教育施策、児童生徒について緊急に対処すべき事案等について協議・調整

教育大綱

- 総合教育会議で協議し、首長が策定
- 大綱とは、教育振興の目標や施策の根本的な方針

徳島教育大綱

平成27年12月策定

基本方針 とくしまの未来を切り拓く、夢あふれる「人財」の育成

2 「徳島県教育振興計画」との関係は？

徳島教育大綱

徳島県の教育振興の 理念

掲載内容 3つの重点項目

重点項目Ⅰ：地方創生から日本創成へ！「徳島ならでは」の教育の推進

重点項目Ⅱ：一人ひとりが輝く！徳島の未来を育む教育の推進

重点項目Ⅲ：グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進

徳島県教育振興計画 理念に基づいた教育振興の 行動計画

掲載内容 具体的な教育施策やその数値目標

3 「徳島教育大綱」の内容について（1）

重点項目Ⅰ

地方創生から日本創成へ！「徳島ならでは」の教育の推進

具体的施策
の主なもの

- スーパー・オンライン・ハイスクール事業
- 徳島発！発達障がい等「とくしま支援モデル」充実事業
- 未来へつなぐ「キャリア教育」推進プロジェクト
- 人口減少社会に対応した小中一貫教育推進事業
(チェーンスクール, パッケージスクール)
- 人口減少社会における高校教育のモデル化事業
- 地方と都市を結ぶデュアルスクールモデル化事業
- 高校生防災士育成・活躍推進事業



チーンスクール（東みよし町の取組：三庄小学校・三加茂中学校）

小学校理科（6年生）：4つの水溶液が何かを考えよう！

(平成28年9月9日(金)の取材から)

小学校の先生が授業課題を提示 **中学校の先生と一緒に授業展開** **小学校の先生が授業のまとめ**

小学校のメリット

- 児童が中学校的授業の雰囲気を味わえる。
- 児童が中学校的先生を知ることができ、安心感を持って中学校へ入学することができる。
- 児童の中学校生活への「期待」が膨らむ。
- 小学校教員が、中学校教員の専門性から多くのことを学べ、授業改善の刺激になる。 等

中学校のメリット

- 小学校でどのような経験をし、どのような知識が育まれているのかを実感できる。
- 中学校に入学していく児童について知ることができ、中学校での指導に役立つ。
- 小学校教員のきめ細かな指導から、授業改善のヒントを得ることができる。 等



海部高校 遠隔授業（第2学年 地理B）

(平成28年9月13日(火)の取材から)

授業者の様子（配信側）

授業を受けている教室の様子（受信側）

- 教科を選択したときは、遠隔授業だとは知らなかつたので、実際に受けてみて「最先端の授業だ！」と驚いたし、興味を持った。
- 板書やプリントの解答などは、モニターにフォーカスして大きく表示されるので、普通の授業よりも見やすく分かりやすい。しばらく表示されているのでノートを取り忘れることもない。
- 人数が少ないからかもしれないけれど、質問がしやすい。授業中に小さな声でつぶやいた疑問にも、先生が対応してくれるるので、分からないままになることがない。
- 普通に授業を受けているのと同じは変わらない。違和感なく授業を受けている。

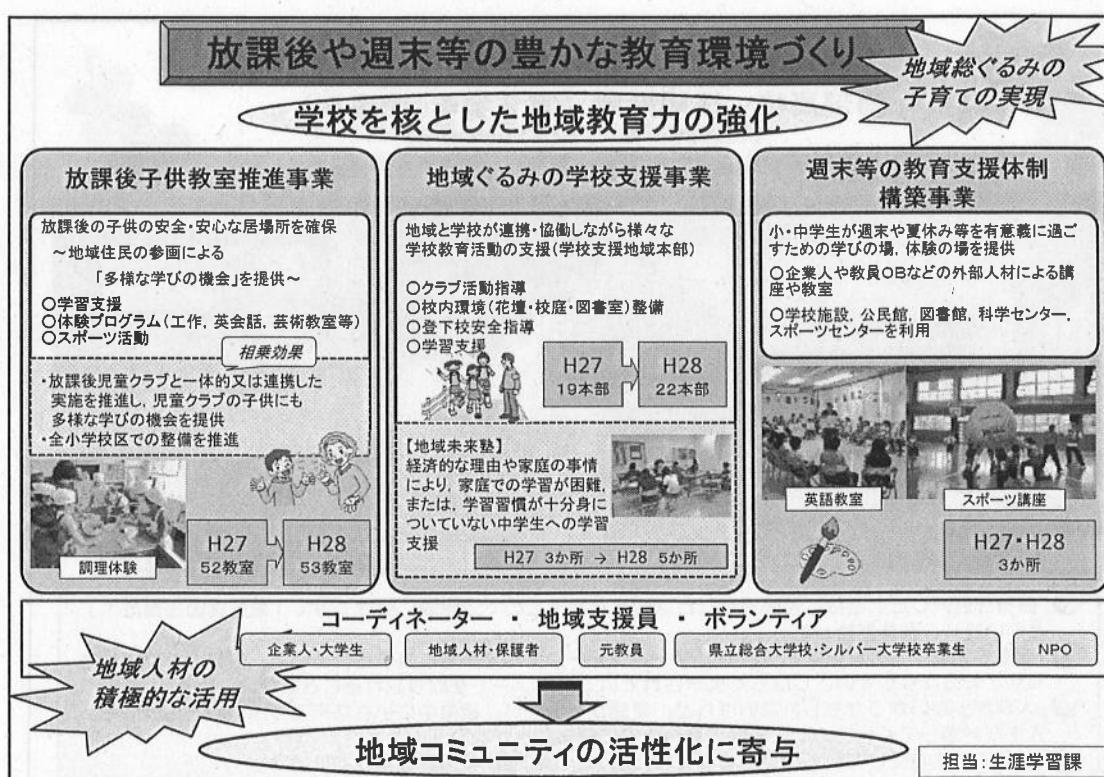
4 「徳島教育大綱」の内容について（2）

重点項目Ⅱ

一人ひとりが輝く！徳島の未来を育む教育の推進

具体的施策
の主なもの

- 学力向上「徹底」プロジェクト
- 放課後子供教室推進事業・地域ぐるみの学校支援事業
- 「エシカル消費」推進プロジェクト
- 「阿波の元気もり森」推進事業
- 6次産業化実践教育による地域プロフェッショナル人材育成事業
- 道徳教育総合支援授業
- 18歳選挙権に係る若者向け選挙啓発及び主権者教育推進



徳島教育大綱をベースにした学校・保護者・地域との協働の取組
三世代交流学習会（三好市立西井川小学校の取組）
(平成28年10月8日(土)の取組から)

<p>幼稚園・1年生</p> <p>☆指導：長寿クラブ（5名）☆ 昔ながらの遊び道具を作ろう（水鉄砲を作つて遊ぶ）</p> 	<p>2年生</p> <p>☆指導：長寿クラブ（2名）☆ 昔のおやつをつくろう (さつまいもを使ったおやつ作り)</p> 
<p>3年生</p> <p>☆指導：長寿クラブ（3名）☆ 地域のお祭りを体験しよう</p> 	



加茂名南小学校と連携した城西高等学校の取組
エシカル消費推進プロジェクト～田んぼの学校～
小学生親子と考える「食」と「生き物」のつながり
(平成28年6月12日(日)の取材から)



「田んぼの学校」のねらい

- ①「田んぼの生き物調査」を通して、食・生物多様性・農業の「つながり」について考える。
- ②「食」という消費活動における選択が、環境にどう「つながる」のかを理解する。
- ③城西高校生は、スタッフとして参加し、エシカル消費への理解を深め、伝える力を養う。
「田んぼにはたくさん生き物がいる」 ⇔ 「私たちは田んぼでどれたお米を食べている」
(この2つの関係について、学んで欲しい)



講師先生の説明を聞いてメダカをゲット

城西高校生も生物採集

5 「徳島教育大綱」の内容について（3）

重点項目Ⅲ

グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進

具体的施策
の主なもの

- 輝け高校生！文化芸術創造・発信事業
- 羽ばたけあわっ子！文化芸術共創・発信事業
- 徳島グローバルスタンダード人材育成事業
- Tokushima英語村プロジェクト・ステップアップ事業
- めざせ！！「Super Student」プロジェクト
- スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業
- 徳島トップスポーツ校育成事業

輝け高校生！文化芸術創造・発信事業

事業の方向性 ⇒ 地方こそ文化の拠点
 ○高みを目指す若者の芸術力を磨き、全国に通用する人材を育成
 ○徳島が世界に誇る「あわ文化」の次世代継承と新たな創造を推進

文化芸術による
一億総活躍・地方創生の方策
高校生の「文化力」を結集！



文化芸術リーディングハイスクール 推進

- 県内唯一の芸術科（音・美・書）を有する名西高校の強化！
- 第一線のプロの芸術家や芸術系大学教員によるスキルアップ
- ⇒大会、コンクールでの着実な成果と芸術系大学への進路拡大
- ・近代美術館とのコラボによる研修や発表機会の創出
- 名西高校の芸術力を地域に普及
- ・学校を地域の「文化芸術ギャラリー」として整備
- ・「名高芸術祭」「県内巡回展」の開催
- ・地域の施設や学校に高校生が出向き文化交流



徳島が誇るあわ文化次世代 継承

人形浄瑠璃、藍染め、第九を
高校生の手で盛り上げ！

- 城北高校「人形会館」の改修
・阿波十郎兵衛座敷、農村舞台に次ぐ阿波人形浄瑠璃第三の拠点へ(H22竣工)
- 高校生のあわ文化発表の場の創出
・「じょうるりスピリッツ(仮称)」高校生による阿波人形浄瑠璃フェスの開催
- ・高校生による藍染め作品の展示
- ・高校合唱部のベートーヴェン「第九」演奏会参画



高校生文化芸術力 発信

全国の高校生と切磋琢磨！

- 全国総合文化祭への参加充実

- 近畿総合文化祭への派遣拡大

- 徳島県総合文化祭の活性化

H30 近畿総合文化祭徳島大会
に向けて大いにアピール！

※今の中学生が主役

- ・「徳島県中学校文化連盟」の設立(H27)及び
「徳島県中学校総合文化祭」の開催
- ・全国中学校総合文化祭への出展、派遣
- ・「あわっこ文化大使」活躍の場拡充

スポーツのみならず文化の祭典でもある「東京オリンピック・パラリンピック」に向か
若人による文化の創造と発信を強力に展開！

担当:教育文化課

第1回ジュニア浄瑠璃フェスティバル 開催

(平成28年10月23日(日)の取材から)

春二人三番叟（城北高等学校）

●民芸部の創部は昭和31(1956)年。昨年度に校内の「人形会館」が国の登録有形文化財に。



傾城阿波の鳴門 順礼獻の段（新野中学校）

●民芸部の創部は平成4(1992)年。中村園太夫座の西村先生の指導のもと練習に励む。



Tokushima英語村プロジェクト・ステップアップ事業

徳島の子どもが「生きた英語」を身につける場として…

小学生…日帰りキャンプ

小学校5、6年生が、ALTと英語でコミュニケーションを楽しみながら、徳島の歴史・文化を学ぶ（県央・県南・県西の3コース）



H27: 95名が体験
(3コース全体)

H27: 70名が体験
※111名から応募

中学生…1泊2日 English Camp

中学生が、留学生やALTと、少人数で、英語オンリーの生活体験
(勝浦、美馬、牟岐の県内3か所)



高校生…徳島サマースクール

高校生が、ハーバード大学を中心とした海外大学生らと6泊7日の擬似留学体験



「世界を知ること＝自分を知ること」

「英語をツール」として
小・中・高の各段階で
外国人と交流体験

H27: 全49名の高校生
(県内30、県外19名)
※国内…10都道府県
※海外…米国・香港

ハーバード、コロンビア、イエール、プリンストン等、世界トップ大学の大学生を招へい

高校生…ジュニア観光ガイド

高校生「ジュニア観光ガイド」を養成し、来県外国人や世界に向けて、郷土徳島の魅力を英語で発信できる人材を育成



■高校生10名程度
■徳島の食、寺院・史跡、伝統文化、芸術、アニメ、自然など
■英語通訳実習
■受講者へ「認定証」授与など

英語力・コミュニケーション力・国際感覚を身に付けた人材を育成

担当:学校教育課

Tokushima 英語村プロジェクト・ステップアップ事業

徳島サマースクール

セミナー

ハーバード大学の1年生向けの「フレッシュマン・セミナー」を模して設計されたプログラムで、海外大学生と、日本人バイリンガル大学生が2人で教える少人数制の授業です。今年開設されたセミナーは14講座。

- セミナーリーダーは、オックスフォード、ハーバード、コロンビア、ダービン、タワーズの各大学の学生です。
- 高校生は、自分の希望で1講座、指定される1講座の2講座を受講します。

